The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	新年のごあいさつ
Author(s)	笹井, 康典; 相良, 武彦; 巽, 陽一 他
Citation	makoto. 2009, 145, p. 2-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/85738
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

新年のごあいさつ

大阪府健康福祉部長

笹　井　康　典

新年あけましておめでとうございます。

財団法人大阪防疫協会の皆様には、益々清祥のこととお慶び申し上げますとともに、日頃から本府の健康福祉行政に対して格別のご支援、ご協力をいただいていることに、心から感謝申し上げます。

さて、世界金融危機の影響が、大阪経済にも影を落としつつあります。大阪府も厳しい財政状況の中ではありますが、府民の安全・安心が確保されるよう、各種の取り組みを進めています。

昨年は、４月から麻しん（はしか）の「2012年までの排除」を目標にした麻しんに関する特定感染症予防指針の取り組みが始まりました。一昨年の麻しん（はしか）の10代後半から20代の年齢層での流行を受け、新たに中学１年生・高校３年生相当の方が５年間予防接種の対象になるなど、麻しん対策の強化が図られたものです。

しかし、現状としては、まだまだ新たな予防接種は不十分な水準に留まっております。本府としても、再び麻しんの流行を起こさないため、市町村、学校設置者との連携を強化し、確実な接種勧奨を図っているところです。

また、東南アジアを中心に、鳥インフルエンザのトリからヒトへの感染による死亡例が続いており、これらのウイルスが、ヒトからヒトへの感染力を獲得し流行を起こす、新型インフルエンザの世界的な流行が危惧されています。

大阪府では、新型インフルエンザの発生に迅速に対応し、被害を最小化するため、新型インフルエンザ行動計画に基づき事前対策を行っているところです。今後も、取り組みを強化するとともに、府民の不安解消に努めてまいりたいと考えております。

こうした状況下において、貴協会におかれましては、これまでのワクチン供給、消毒等の公衆衛生における豊富なノウハウと高度な技術をいかんなく発揮されることを、大いに期待しております。

最後に貴協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈りいたしまして新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

財団法人　大阪防疫協会

理事長 相　良　武　彦

新年あけましておめでとうございます。

皆様方にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中はなにかとお力添えを頂き有り難う御座いました。本年も変わらず御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年の我が国の実体経済は、アメリカのサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機と、原油高騰の煽りで一気に悪化しました。もともと景気回復の実感の乏しかったところに景気後退という、真に厳しい現実となりました。各国でさまざまな経済対策が講じられようとしていますが、それが奏効して、少しでも早く世界経済が立ち直り、景気拡大の声が再び聞かれる日が待たれます。

厳しい経済環境が何時まで続くのか分かりません。このような時こそ無駄のない生活が求められます。不必要な出費を抑えるためにも、日頃の心がけ、あるいはワクチンにより、予防可能な病気には罹らない努力が必要と思われます。医療費は国にとっても大きな負担となっており、今、施策として、生活習慣病対策、予防接種対策に重点が置かれています。それにも拘らず、昨年、麻疹への免疫力の低下した若者を対象として、迅速に導入された、３期（中学１年生）、４期（高校３年生）の定期接種追加の措置が十分活用されていません。そのワクチンの供給に携わる当協会としましても残念でなりません。その措置には５年間の期限があることをもっと重視してほしいものです。

昨年12月１日より新公益法人制度が施行されました。長年、公益法人としての自覚のもとに、さまざまな活動を通じて、人々の健康で快適な暮らしに奉仕して参りました当協会も、今後５年間に公益財団法人、一般財団法人のいずれかへの移行をせまられる重大な岐路に立たされました。従前の活動が支障無く続けられるよう、よりよい道を模索して参る所存です。どうぞ重ねての御支援よろしく御願い致します。

今年が皆様方にとりましてより良い年になりますことを祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

大阪市健康福祉局
医務保健総長
巽　陽一

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様方には益々ご清栄のこととお喜び申しあげます。

旧年中は、本市の健康福祉行政の推進に格段のご理解、ご協力を賜り、心から厚くお礼申しあげます。

さて、昨年は８月に北京オリンピックが開催され、華々しいトップアスリートたちの活躍が世界中の注目を集めました。その一方で、四川大地震、岩手・宮城内陸地震、突発的な集中豪雨による浸水被害の発生など、国内外で大きな自然災害が発生しました。さらに世界的な大不況の影響により市民生活に大きな不安が広がっています。

また、先月ポーランドにおいて開催されたCOP14は、温室効果ガスの削減幅など重要な議題が持ち越されたまま閉幕しました。このまま気候変動が進めば、これまで主に東南アジアなどで流行していたデング熱等の蚊媒介性感染症の流行地域が日本にまで拡大する可能性があると、多くの研究者が指摘しております。新型インフルエンザによるパンデミックの可能性、ウエストナイルウィルスの日本国内への侵入の危惧など、市民の健康に重大な影響を及ぼす多くの課題があり、防疫活動や衛生管理の重要性がますます高くなっています。私共としましては、貴協会が永年にわたり培ってこられた防疫対策や建築物の衛生管理に関する豊富な知識と経験、高度な技術に大きな期待を寄せております。今後とも、ご研鑽を積まれ、快適な生活環境の推進にご尽力いただきますようお願い申しあげます。

大阪市においても、これらの健康危機事象に迅速に対応していくために、保健・医療・福祉をはじめとする市民生活の安全、安心を守るセーフティネットを構築し、健康福祉行政の推進に努めてまいります。

年頭にあたり、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

新年のごあいさつ

堺市健康福祉局健康部長
北牧　昇

新年あけましておめでとうございます。

財団法人大阪防疫協会の皆様方におかれましては、新しい年を穏やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、多方面において、本市保健衛生行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

わが国はサブプライムローン問題を発端にしたアメリカの景気減退、食料品などの物価上昇などにより、景気減速の懸念が広がっています。そういう状況のなかで、行政を取り巻く財政状況は厳しいものがございます。

堺市は、政令指定都市にふさわしい、各区域の個性が発揮された、魅力と活力があり、そして安全・安心の、歴史と伝統を踏まえた「オンリーワン」のまちづくりに取り組んでいるところであります。

一方、保健衛生分野におきましては、中国から輸入された冷凍ギョーザに農薬が混入していた事件や、度重なる食品の偽装事件など市民生活の安全が脅かされる事件が多発しております。今後、こうした不測の事態への早急な対応が求められます。

本市といたしましても、緊急時等におけるセーフティネットの構築を行ない、市民が健康に安全で安心して暮らせるように努力して参りたいと考えております。

貴協会におかれましては、「健康都市・堺」の実現をめざした環境の確保のため、今後とも豊富な知識、経験、高度な技術を活用していただきまして、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と皆様方のご活躍とご健勝、そして、本年が皆様にとりまして幸多い一年となりますことを心よりお祈りいたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

東大阪市健康福祉局
健康部長 橋　本　　求

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様方には、益々ご清栄のことと心からお喜び申し上げます。

旧年中は、本市の保健衛生行政の推進に格別のご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、北京オリンピックでの日本選手の活躍に感動する一方、アメリカに端を発した世界的な金融不安や景気後退、輸入冷凍餃子への農薬混入事件や汚染米問題など私たちの日常生活を脅かすニュースが多々ありました。

現代社会は全世界が密接で連鎖的に影響しあうため、グローバルな対応が求められています。これは社会事象に限ったことだけではなく、保健衛生の分野に関しても言えることです。どこか１国で発生した新型インフルエンザが、あっという間に全世界に広がることが危惧されています。また、地球温暖化問題も、もはや止めるのではなく、できるだけ遅らせて対処していく方向に動いておりますが、この温暖化により蚊の生息域が北上することによって、蚊媒介性感染症が従来の流行地以外の場所で発生・流行することも懸念されています。これらの危機事象に対して、いつかは起こる現実として認識し、予防や事前の対応に努めなければなりません。

本市におきましても、ウエストナイルウイルス媒介蚊のサーベイランス、新型インフルエンザ訓練の実施、市民への啓発などを行い、市民が安心して暮らせるまちづくりを精力的に進めているところです。

貴協会におかれましては、永年培ってこられた豊富な経験や高度な知識・技術・業績をもって、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様方のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

高槻市保健福祉部長
吉　里　泰　雄

新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様方には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

貴協会におかれましては、平素より本市の保健福祉行政の推進にご協力をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は北京オリンピックやアメリカ合衆国大統領選挙の話題で盛り上がりましたが、中国に端を発した乳製品へのメラミン混入事件では、多くの国がその影響を受けました。この例で見られるように最近は社会的、経済的にグローバル化が進展し、国境を越えて多くの国々が影響を及ぼしあう状況になっております。

その中でも地球温暖化の影響は、世界の脅威となっており、日本では、亜熱帯化の進行により、東南アジアで流行しているマラリアやデング熱の日本への侵入が危惧されているところです。またアメリカ等で流行しているウエストナイル熱ウイルスの日本への侵入に備える必要があり、新型インフルエンザの爆発的な流行も時間の問題だといわれています。

このような状況の下、本市におきましては、安全・安心の街づくりの一環として健康危機管理体制の整備、充実を図り、関係機関との連携を強化するとともに、市民啓発に努めているところです。

貴協会におかれましては、永年培ってこられた防疫あるいは環境衛生対策などに関する豊富な知識や高度の技術を遺憾なく発揮され、今後とも本市の保健福祉行政の推進に、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝ご多幸を心から祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のごあいさつ

大阪府保健所長会　会長
大阪府茨木保健所　所長
一　居　　誠

新年明けましておめでとうございます。

財団法人大阪防疫協会の皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃は保健所の事業推進につきまして格別のご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今冬もインフルエンザが流行し学級閉鎖や休校などのニュースが聞かれています。幸いなことに、新型インフルエンザの発生は未だ報告がありませんが、その対策などに関する話題がマスコミ等を賑わせています。近い将来に出現するとされる新型インフルエンザが高病原性鳥インフルエンザと同じH5N1亜型か、それ以外の亜型なのかは分かりませんが、いずれにしてもヒトは新型ウイルスに免疫を持たないため、大きな健康被害が予想され、まん延状況によっては社会機能が破綻するおそれがあります。そのため国や府では数年前から行動計画やガイドラインを策定し、様々な対策を練っています。保健所も地域における感染症対策の拠点として、新型インフルエンザへの備えを日々充実し、情報提供に努めてまいります。しかし、基本は各個人が新型インフルエンザに関する正確な知識を持って事前準備を怠らないことであり、国内で流行したときにも冷静に行動することが肝要と思われます。

このような時期にあって、貴協会がこれまで培ってこられた防疫、環境衛生対策などに関する豊富な経験や高度な知識・技術を遺憾なく発揮され、住みよい環境を守っていただくとともに、保健所へもご支援をいただきますよう切にお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会のますますのご発展と、会員の皆様のご健康、ご活躍をお祈り申し上げ、新年のご挨拶と致します。

新年のごあいさつ

財団法人
阪大微生物病研究会
理事長　東　　雍

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、お健やかに新春をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。旧年中は、財団法人阪大微生物病研究会のワクチン事業に対し、格別のご理解とご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は1月に大阪府知事に弁護士でタレントの橋下徹氏が当選、そして、9月には麻生内閣が発足しました。またアメリカでは、大統領選でバラク・オバマ氏が当選しました。このように、トップが特に民意によって交代するということは、時代が変貌していくことを予見させ、私たちもその変化を見極めながら対応していく必要があると痛感しております。

近年、感染症における世界的な関心事といえば、新型インフルエンザでしょう。インフルエンザパンデミックは、世界の何処で発生しても不思議ではなく、世界的規模で対策が講じられております。わが国においても新型インフルエンザ対策行動計画が作成されましたが、その中核に位置づけられているのはワクチン接種です。私共微研財団では、昨年8月インフルエンザワクチン専用の製造棟を新設し、今後の国の施策にも対応できるよう準備に努めております。

一方、一昨年からの大学生など年長者を中心とした麻しんの大流行を受け、更なる対策として昨春より中学1年生高校3年生を対象とした追加接種が開始されましたが、厚労省の調査によるとその実施率は芳しくないようです。理由としては啓発も含めた情報の不足が指摘されています。

微研財団では、従来より「ビケンワクチンニュース」などを発行し、定期的に感染症そしてワクチンに関する最新情報を皆様方にご提供しておりますが、更なる情報提供のため、昨年ホームページを一新いたしました。

私共微研財団は、ワクチンの開発および製造、供給を通じて公衆衛生の向上に貢献できますよう一層努めて参ります。

最後になりましたが、貴協会のますますのご発展と皆様方のご活躍ご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。